

島根 更生 保護

NO.164

(平成22年1月1日発行)
島根県保護司会連合会

〈島根更生保護データ〉	
保護司総数	492人
保護観察事件	180件
生活環境調整事件	215件
(21.12.1現在)	



出雲神代神楽 (雲南市提供)



年頭の御挨拶

松江保護観察所
所長 橋本忠夫

新年明けましておめでとうございます。

島根県内の更生保護関係者並びに関係機関・団体の皆様におかれましては、清々しい新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

まず初めに島根県内の更生保護が円滑に推移しておりますことは、保護司の皆様を始め、更生保護協力組織及び県内の関係機関・団体の皆様方のお力添えがあつてのことと心から御礼申し上げます。

次いで、昨年は更生保護制度60周年記念・第22回島根県更生保護大会が江津市総合市民センターにおいて開催され、盛会裡に終了することができました。これも県内の更生保護関係者並びに関係機関・団体の御協力の賜であり重ねて御礼申し上げます。

本年は更生保護法が施行されて3年目を迎えます。導入期から定着期に入り、法の趣旨に添った運用が着実に図られ、再犯防止に重点を置いた処遇の充実が果たされなければなりません。

しかし、引き続き不況の中、経済社会情勢は依然厳しく、

新卒者の就職も危ぶまれる状況であり、保護観察対象者や刑務所出所者・少年院出院者などの犯罪歴や非行歴のある人たちの雇用はますます厳しいものとなっております。

このようなときに、昨年10月島根県の経済界を中心とするNPO法人『島根県就労支援事業者機構』の設立総会が開催され、11月には島根県にNPO法人の認可申請を行い、本年1月以降に認可される見通しとなっております。この法人は、犯罪や非行歴のある人を雇用して、立ち直りに協力している協力雇用主を物心両面から支援し、且つ、犯罪予防の啓発・広報を行うなどの事業を展開し、安全安心な社会づくりに貢献しようとする組織です。

保護観察対象者の無職者の再犯率は有職者の5倍以上という実態から、『再犯防止は就労支援で』と国を挙げて取り組んでいる中、島根県でも経済界を中心とするNPO法人が活動を開始されることは非常に心強い限りです。

保護観察所といたしましても、このNPO法人の充実発展を支援しつつ、協力雇用主の拡大に努め、保護観察対象者等の就労を支援し、再犯を防止し、安全安心な社会づくりに邁進いたします。更生保護関係者並びに関係機関・団体の皆様の御支援・御協力も御願ひ申し上げます。

最後に、新年が皆様方にとりまして良き年でありますことを祈念申し上げ、新春の御挨拶といたします。



恭賀新年

“いのちの重みの継承を…”

島根県保護司会連合会
会長 坂本 圭 祥

輝かしい新春を迎え、謹んでお慶び申し上げますと共に、更生保護関係各位の益々のご多祥を衷心よりお祈り申し上げる次第でございます。

一昨年発足した特定非営利活動法人（NPO）全国就労支援事業者機構が設立され、更に各観察所単位に於いても、この法人の機構設立が求められ、又「地域生活定着支援センター」の設置も、都道府県で推進されております。

施設から釈放されても社会復帰が出来ず、再犯を犯して施設に戻る者が多い。それは就労できない事が原因だとの見解で、再犯防止策として社会復帰を支援するという施策であります。

一般社会的には、犯罪を犯した人を支援するには抵抗感があるかもしれません。しかし社会も現実を真摯に受けとめねば、益々犯罪は増長することでしょう。そして尊い命が奪われる大きな事件となり得ることも

考えられます。

昨年、浜田市で痛ましい事件が起きました。アルバイト先からの帰路に於いて、突然さらわれ、広島県境でバラバラに切り刻まれて無惨きわまりない姿で発見されました。驚愕する事件があとを絶たない昨今の情勢であります。

ある冊子に「教育現場から」の記事ですが、小学校教諭である田口みちる氏の言葉に、「最近ではテレビをつけると毎日のように痛ましい事件が報道されている。“いのちの教育”が叫ばれだして、道徳教育や人権教育など様々な教育課程で“いのちの大切さ”を伝えてきたつもりであるが、なかなか伝えきれていないのが現状である。子どもたちがいのちを軽視する一つの原因として考えられるのが、=自分のいのちは自分だけのもの=という考え方だと思われる（略）いのちの重みを手にとって見せることはできない。しかしいのちの重みは、数えきれないご先祖様のいのちの重み、この事を実感し両親や祖父母を大切にできる子をこれから育てていけば、悲しい事件に歯止めをかけることができるのではないかと信じている」と。いのちの重み、尊さを伝える、そういう社会改善を望みたいものです。

社 明 窓

通勤電車の中は人材の宝庫であり、人間観察の場でもある。寝ている人、携帯電話のメールに夢中になっている人、なかには、ニンテンドーDSに真剣に取り組んでいる年配の人や、席が空いているのにつり革につかまり、背伸びをしてダイエットらしきことに頑張っている女性までいたりする。朝の電車内で日経新聞を読んでいる人は、ほとんどが銀行の人たちだ。

なかでも注目すべきは学生である。4月、中学を卒業して高校に入学したばかりの学生たちは、電車が公共の乗り物であることをまるで無視するかのように大声で話をしている。ところが、面白いことに、季節が

秋になる頃には、不思議とそういう学生はほとんどいなくなる。彼らなりに通勤マナーを理解し、人として成長しているのであろう。彼らのテスト期間中には、聞き覚えのある数学の公式や、歴史の出来事、英語の文法などがあちこちで飛び交っている。それらが耳に入ってくると、自分が学生だった頃の記憶がよみがえり、とても懐かしい気分にしてくれる。

彼らはこれからを担う大切な人たちである。若さ故に過ちを犯すこともあるかもしれないが、今という時間を一生懸命に生きてほしいものである。

保護観察官 井田 高志

謹んで新年の

ご挨拶を

申しあげます

平成二十二年元旦

松江保護観察所

所長 橋本 忠夫

島根県保護司会連合会

会長 坂本 圭祥

更生保護法人

島根保護観察協会

理事長 溝口善兵衛

更生保護法人

島根更生保護会

理事長 福田 和夫

島根県更生保護女性連盟

会長 尾崎 修子

島根県BBS連盟

会長 長松 忠夫

島根県協力事業主会

会長 坂根 勝

— 更生保護制度施行60周年記念 —

第22回島根県更生保護大会

平成21年10月15日江津市総合市民センターにおいて更生保護関係者約550名が参加し記念式典が開催されました。午前は、江津市長歓迎の挨拶の後、清興「よさみ太鼓」に続き、桂才賀氏（落語家・少年院篤志面接員）の記念講演「少年面接員が語る現代青少年の心～子どもを叱れない大人たちへ～」を拝聴しました。午後の式典は、坂本圭祥島根県保護司会連合会会長の式辞、橋本忠夫松江保護観察所長の挨拶に続いて、永年にわたり更生保護事業に功績のあった274名の方々に表彰状、感謝状が贈呈されました。受賞者を代表して法務大臣表彰受賞者の高橋良次氏(保護司)から謝辞があり、来賓としてご臨場いただいた山田憲児中国地方更生保護委員会委員長、谷口幸博松江地方・家庭裁判所長（小林幹典事務局長代読）、井越登茂子松江地方検察庁検事正、溝口善兵衛島根県知事（佐藤孝男顧問代読）、田原正居島根県議会議長（藤間恵一島根県議会議員代読）の方々の祝辞をいただき、最後に福田和夫島根更生保護会理事長の万歳三唱により式典を終了しました。



清興



会場



開会式



記念講演



表彰

法務大臣表彰を受賞して

松江地区保護司 高橋良次

去る9月8日東京国際フォーラムにおいて、天皇皇后両陛下のご親臨のもと、更生保護制度施行60周年記念全国大会が盛大に開催されました。私もこの大会に出席させて頂き天皇陛下から温かい励ましのお言葉を賜り身が引きしめる思いでした。また、10月15日江津市において第22回島根県更生保護大会が開催され、壇上において法務大臣表彰状・メダルが伝達され、あらためて感激をいたしました。

顧みますと、私の恩師で保護司の大先輩でもある故野々村正明先生の推薦により昭和63年6月保護司を拝命、以来21年余になります。当時は職場に勤務しながらの活動のため休日を利用

しての面接、2～3人担当するとパニック状態。それでも、家内の協力があつたからこそ出来たと思っています。未成年であった対象者が立派な社会人になり、帰松時には挨拶に来てくれます。やって来てよかったと保護司冥利につきます。これからも微力ではありますが、更生保護のため尽力したいと思っています。



代表謝辞



受賞者

更生保護功勞による
叙勲・褒章（敬称略）

藍綬褒章 堀江 房子（益田）



子どもの心向き合う

堀江 房子

この度藍綬褒章受章の知らせを受け、まさかこの私が一と長年携わってきたというだけで信じられない気持ちでしたが、身に余る光栄に嬉しく、喜んでおります。思えば昭和40～50年代に自宅の寺を開放して毎夏、林間学校を開いていた当時前任の保護司だった津和野町住職から「貴方は適任者だ是非後任を頼む」と言われ引き受けましたが、直後に住職は他界、指導を受ける間もなく、手探りで活動を始めました。過ちを悔やむばかりで心を開かない少年もいて更生させるためのむずかしさに困り本人

に「担当を代わってもらからネ」と言ったところ「おばちゃんがいい、よそに行かないで、変わらないで」と泣き付かれた。甘え方を知らなかったのでしょうね。怒ったり、笑ったり、あるがままの自分で接することが大切なのだと教えられました。社会人の場合は又別なむずかしさもありましたが得難い経験も積む事が出来ました。保護司24年間無事つとめる事が出来ましたのも皆様方のあたたかい御指導と御協力のあってこそ、深く感謝いたしております。来年5月に引退いたしますが、体のつづくかぎり、婦人会や自治会の活動に頑張っていきたいと思っております。

愛の図書贈呈式

平成21年11月26日松江保護観察所において、島根県更生保護女性連盟による第49回「愛の図書贈呈式」が行われました。尾崎修子連盟会長の挨拶の後、下記各施設の代表の方へ愛の募金による「図書」が贈呈されました。図書に親しみ、読書を通して豊かな心を育んでもらうものです。

松江刑務所、島根あさひ社会復帰促進センター、美保学園、松江少年鑑別所、更生保護法人島根更生保護会、県立わかたけ学園、県立女性相談センター、中央児童相談所、出雲児童相談所、浜田児童相談所、益田児童相談所



平成21年度 各種表彰受賞者 (敬称略)

法務大臣表彰

奥原 千賀子（松江）
恩田 祥雄（松江）
越野 久茂（松江）
高橋 良次（松江）
藤原 規九郎（松江）
吉長 義親（松江）
山中 智之（安来）
高橋 平治（雲南）
谷岡 美榮子（雲南）
三島 稔（雲南）

井上 明男（出雲）
成相 教専（出雲）
松浦 昭男（大田）
宮川 公子（益田）
荻野 泰道（益田）
本田 行憲（益田）

法務大臣感謝状

〔民間協力者〕
長浜社中子ども神楽（浜田）
安来市スポーツ少年団（安来）
〔更生保護女性会員〕
越野 由美子（東出雲）
藤井 京子（大社）

安食 美和子（斐川）
安井 昭雄（松江）
佐藤 昭雄（松江）
村社 征利（安来）
長妻 久良（安来）
高橋 信義（安来）
若槻 幸雄（雲南）
松浦 昇（雲南）
徳江 良弘（雲南）
足立 進（出雲）
小林 昌次（大田）
静間 英明（邑智）

全国保護司連盟会長表彰

小松 ミチ子（浜田）
福郷 孝司（益田）
藏本 知宏（益田）
高橋 英康（隠岐）
〔内助功労者〕
福岡 幸子（出雲）
森福 富士子（浜田）
神一 邦子（益田）
日本更生保護女性連盟会長表彰
石川 咲子（玉湯）
清谷 富士子（斐川）
高木 禮為子（浜田）
又賀 清子（益田）

不思議なことあれこれ

大田地区保護司会 木村 昌晴

視点

焦点

その一。自動車運転中の喫煙。
 道路交通法により運転中に携帯電話を使用することが禁止されているのは皆様ご存知のとおり。それでも電話で話しをしながら運転している人をよく見かけはしますが。電話使用と同じように危険な行為だと思われるのに、運転中の喫煙はなぜ許されているのでしょうか。繁華街で歩行中の喫煙を禁止する条例を定めている自治体がある時代に不思議なことです。交通事故の中で喫煙を原因とするものがどれほどあるか知りませんが、ただ単に統計資料がないということだけで、運転中の喫煙が持つ危険性が軽視されているような気がします。現在、このことに対する規制がないので、

啜え煙草運転は野放し状態です。運転中の喫煙がなくなると交通事故も減り、煙草の投げ捨ても減って火災予防にもなるはずです。

その二。プロ野球選手のグラウンドへの唾の吐き捨て。自分の生活のみならず、生命さえかける職場に唾を吐き捨てるのはプロ野球かプロサッカーくらいでしょう。不思議なことです。サッカーは運動量が多いので仕方ない気もするのですが、駅伝やマラソンで道路に唾を吐きながら走る選手はあまり見かけません。少年野球、高校野球では許されない行為です。プロの選手なら、何事にも模範であって欲しいものです。こんなことを考えている私は不思議な人間なのでしょうか？

石見地区代表者会議を開催して

邑智地区保護司会

事務局長 井下 慈海

地区だより

11月4日、石見地区保護司代表者会議が、松江保護観察所長・美郷町住民福祉課長ご臨席の下、地区代表者18名の参加を得て美郷町で開催されました。

この会議は、毎年各地区会の持ち回りで開かれ、石見地域や地区会共通の課題について協議がなされています。

今年の議題は次の4点がありました。

1、観察協会費について

新任保護司への依頼方法や地区保護司会会計での取扱いについて、各地区会での取り組みを意見交換しました。

2、石見支所（石見駐在官事務所）の開設要望

例年取り上げられます議題ですが、昨年10月、鳥根あさひ社会復帰促進センターが開設され、この必要性は一層高まっています。実現に向かっては、更生保護会の設立等の条件整備が議論されました。

3、新任保護司の選任過程について

保護司候補者検討協議会未設置地区の今後の取り組みについて協議されました。

4、社明運動名称変更に伴う対応について

新名称が募集されましたが、反対意見が多く継続される見通しとの報告を受けました。

以上協議し、次回開催を益田地区保護司会の当番とし閉会しました。

子ども達の健やかな成長を願って

鹿島地区更生保護女性会

会長 中島 和子

鳥根半島のほぼ中央に位置する鹿島町は、農村漁村ののどかな町です。そんな町での私達の活動を紹介します。会員数は約50名。更生保護の理念に共感し、奉仕の心で明るい社会づくりに貢献できれば、との思いでいろいろな活動を展開しています。

昨今の残忍で卑劣極まりない事件にとってもやりきれない気持ちになりますが、特に私たちは青少年健全育成の活動に重点を置き、毎年、町内各中学校、小学校、幼稚園、保育所、スポーツ少年団に愛の図書募金を贈呈します。

また、学校や園の行事に積極的に参加して、子ども達と親しく触れ合ったり、本の読み聞かせボランティアなどを行うことにより、地域に住む子ども達と顔なじみになって、声を掛けあい、コミュニケーションが密になれると思うのです。これによって、子ども達の健やかな成長を、地域を挙げて助けたいくことにつながると思っています。

そして、こうした地味な活動を息長く続けるためには、会員同士の親睦と融和が重要と考え、グラウンドゴルフ大会やガーデニング、フラワーアレンジメント教室などを開き、気分転換をしながら楽しめる活動も取り入れているところです。



第59回社会を明るくする運動 作文コンテスト 島根県最優秀作品

小学生
の部

たった一つの出会いから

松江市立法吉小学校6年
梅田 恵里花

「おはようございます。」

私は、あいさつってとてもやさしいお手紙だと思います。それは、あいさつひとつで人をいい気持ちにさせたり、その人となかよくなれたりするからです。私が、あいさつ一言がとても大切だと知ったのは、学校の葉ボタン交流で、岸弘子さんという近所に住むとても素敵な高齢者の方と出会ったからです。

葉ボタン交流をするという話すら知らなかったころ、私はあいさつをただなんとなくするだけでした。「みんながあいさつをしているから自分もする。」「相手があいさつしてきたから一応返す。」「あいさつは口で言えばそれであいさつなんだ。」くらいしか思っています。

その上、あいさつをする相手の人も、選ぶことができました。顔がこわそうな人はいやだとか、集団で歩いている人たちもいやだななど、特定の人にしかあいさつをしなかったのです。たまに、道徳の時間などに、あいさつについて話し合うことがあったけれど、あいさつはしていればいんだくらいしか思っていなかったから、振り返ってみることもしていませんでした。

あいさつをそんなふう思いながら過ごしていると、先生が葉ボタン交流のことについて話し始めたので、「どんなことをするんだろう。葉ボタンをきれいに育てるのが目的のかな。」とっていました。でも、話し合いをしているうちに、福祉推進員の人たちが来られて、「高齢の方のためにこんなに親切な活動があるんだなあ。」と思いました。そして福祉推進員の方の話を聞いたり、先生の話の聞いたりして、葉ボタン交流は、葉ボタンをいっしょに育てることを通して、私たちと高齢者の方との仲を深めるためにするものなんだなあと分かりました。

でも、私は高齢者の方とは話したことなくってなかつたし、高齢者の方って、子どもに厳しいというイメージがあったから、私たちが高齢者の方とふれあうと聞いて、少しドキッとしました。こわくないかなあ、うまくしゃべられるかなあと不安なことばかり考えていました。

いよいよ高齢者の方との出会いの日がきました。私

かなあとドキドキしながら、自己紹介カードと葉ボタンを持って歩きました。

弘子さんの家に着くと、弘子さんは玄関の前でうれしそうに待っていてくれました。私は弘子さんを見て、うわあやさしそうなんだなあと思いました。私のイメージとは全くちがう方でした。とても素敵な笑顔で迎えてくださった弘子さんに、勇気を出してお話ししてみると、弘子さんは、私たちに、まるで自分の孫のように話してくださいました。つい楽しくなって、しばらく時間を忘れてしゃべっていました。行く前の不安な気持ちは、いつの間にかどこかに飛んでいってしまいました。

学校に帰った後、私はなんだか高齢者の方って、やさしくて、いっしょにいと落ち着いて、まるで私のおばあちゃんみたいな感じがしてきました。そして、弘子さんと出会って、私には新しい考え方が生まれてきました。私は、弘子さんにまだ会ってもないのに最初からこわいかもと決めつけてびくびくしていました。そんな自分がとてもはずかしく思えました。この出会いのおかげで、初対面の人とも話せる勇気ももたし、人とふれあうことの楽しさも感じました。そして、あいさつも見たいイメージで決めるなんておかしいと思えました。だから今では、ちょっと勇気はいるけれど、誰にでもあいさつができるようになりました。登校の時、下校の時、人に出会ったら、私からあいさつをします。それに返してもらおうとすごく気持ちがよくなります。時には「へえ、この人意外とあいさつするんだなあ。」とか「やさしい人だなあ。」と感

じることがあります。また、いつもはあいさつをしてくれない人があいさつを返してくれ、うれしい気持ちになったりすることもあります。

今、犯罪や事件が相次いでいます。私は、葉ボタン交流で弘子さんと出会い、ふれあった時の気持ちを大切に、日頃からあいさつをしたり、困っている人に声をかけたりして、犯罪をなくしていきたいと思っています。もし、あいさつをしても返してもらえなかったり、きずついたりすることがあったとしても、私は前を向いて進みます。たったひとつの出会いが私に人とふれあうことは素敵なことだということを見せてくれました。たったひとつの出会いが、自分の中に、勇気を生み出し、笑顔を増やします。人と人があいさつでつながれば、きっと笑顔が増え、明るく、楽しい世の中になると思います。

第59回社会を明るくする運動 作文コンテスト 島根県最優秀作品

中学生
の部

命の尊さ

隠岐の島町立西郷中学校3年

黒田 康 将

皆さんは、芥川龍之介の「蜘蛛の糸」という話を読んだことはありますか。地獄に堕ちたカンダタは、人間の命など平気で奪ってしまう極悪人でした。しかし、生前に一度だけ蜘蛛の命を救うのを見たお釈迦様が、蜘蛛の糸を垂らして天国へ引き上げてやろうとします。カンダタの後を追って上がってくる他の死人をふるい落とそうとしたとたん、糸は切れ、カンダタは地獄へ真っ逆さまに落ちていきました。

もしカンダタが無事天国へ行くことができたら、彼はどうなっていたのだろうか。蜘蛛を救ったカンダタは善人か悪人か。何人もの人間を虫けらのように殺しながら、蜘蛛の命を救ってお釈迦様に助けられることが、はたして正しいことなのだろうか。

今年の五月から裁判員制度が始まりました。殺人などの重大な刑事事件の裁判に、一般人が加わり裁いていくという制度で、いずれ僕たちも参加しなければならない日が来るかもしれません。カンダタを裁くとしたらどうでしょう？カンダタに殺害された遺族は、当然極刑を望むでしょう。大切な人が殺されたのだから、死刑が当然だというに違いありません。たとえ弁護士が、蜘蛛の命を救ったことがあると言っても、被害者の親族に通用するわけがありません。

しかし一方で、カンダタの親族はどうとらえるのでしょうか。確かに極悪人だが、不幸な生育歴があり、なるべくしてなってしまったカンダタの人生を不憫でならないと考えるでしょう。蜘蛛の命を救ったというほんのわずかな正義も残っているから、まだ更生する余地はあると主

張するでしょう。

あなたはカンダタを死刑にしますか。

命はかけがえのないものです。命を奪うことは悪いことに決まっています。それなのに人間は、いつの間にか命にランクを付けるようになりました。我々は毎日家畜を殺し食料を得ます。動物愛護法があっても家畜の命には適用されません。ひとたび戦争が始まれば、相手国の人間の命は奪われて当然になります。たくさんの殺人を犯したものが勲章を得る、それが戦争です。

奪われても良い命と奪われてはいけない命、いったいどこが違うのでしょうか。

どんな金持ちも、どんなに貧しい人も等しく命を授かって生まれてきました。どんな人間にも授かった命を誰か他の人間によって消される権利はありません。

だから僕は死刑には反対です。たとえカンダタのような悪人でも、お釈迦様は見捨てようとはしませんでした。それが尊い命に対する当然の行為ではないでしょうか。

もし自分の身内が殺されたら、僕も犯人を憎むでしょう。しかし、その人の命を奪う権利は誰にもないはずで。命というのは、それくらい尊いものだと思うのです。

裁判員制度が始まって、今まで以上に命の尊さについて我々は学ばなければなりません。どんな人の命であろうと、その時の感情的な判断で命を奪うことは許されることではありません。僕は死刑制度に反対します。

僕はどんな命も見捨てたくない。例えどんなに小さな命でも、僕は見捨てない。この世に生を受けたものは、みな生きる権利を持つのですから。

第59回社会を明るくする運動 作文コンテスト入賞者

応募総数483点 (小学校280点・中学校203点)

【小学生の部】

- 最優秀賞 (島根県推進委員会委員長賞)
梅田 恵里花 (松江市立法吉小学校6年)
「たった一つの出会いから」
- 優秀賞 (島根県保護司会連合会長賞)
石田 梨紗 (吉賀町立朝倉小学校6年)
「つながることの大切さ」
- 優秀賞 (更生保護法人島根保護観察協会理事長賞)
江角 彩楓 (斐川町立中部小学校6年)
「もう「見てるだけの人」にはならない」
- 優秀賞 (島根県更生保護女性連盟会長賞)
原 菜々美 (出雲市立湖陵小学校5年)
「私たちが、がんばろう」
藤山 純奈 (松江市立城北小学校6年)
「家族のように」
- 優秀賞 (島根県BBS連盟会長賞)
伊藤 滉基 (出雲市立岐久小学校2年)
「おにごっこ」
山田 明香 (浜田市立宇野小学校6年)
「地域のみなさんありがとう」
- 優秀賞 (山陰中央新報社賞)
安達 優衣 (浜田市立原井小学校5年)
「言葉がつなげる」
北島 遥 (松江市立大庭小学校6年)
「私の知らないおじいちゃん」

(小学生の部 石田梨紗さんの作品は、全国レベルでの審査の結果、全国保護司連盟会長賞に決定しました。)

【中学生の部】

- 最優秀賞 (島根県推進委員会委員長賞)
黒田 康将 (隠岐の島町立西郷中学校3年)
「命の尊さ」
- 優秀賞 (島根県保護司会連合会長賞)
中村 友紀 (松江市立本庄中学校2年)
「私の標語」
- 優秀賞 (更生保護法人島根保護観察協会理事長賞)
申崎 翔 (浜田市立弥栄中学校3年)
「父から学んだこと」
- 優秀賞 (島根県更生保護女性連盟会長賞)
井上 瑠衣 (斐川町立斐川西中学校3年)
「回り道」
室 輝之 (大田市立北三瓶中学校3年)
「責任について」
- 優秀賞 (島根県BBS連盟会長賞)
佐々木翔太 (江津市立青陵中学校3年)
「一冊の本を読んで」
片寄 真耶 (松江市立第四中学校3年)
「優しい街づくりをめざして」
- 優秀賞 (山陰中央新報社賞)
沖田 智範 (浜田市立浜田東中学校1年)
「人のために動くこと」
引地くるみ (浜田市立第三中学校3年)
「普通の家族」

保護司の異動

〔退任保護司〕 10名 (平成21年11月30日付け)

梶 田 宗 芳 (松江)	田 原 仁 司 (浜田)
稲 垣 昌 矣 (松江)	齋 藤 彰 子 (浜田)
梶 谷 玄 雄 (雲南)	金 口 博 幸 (浜田)
千 葉 琢 道 (出雲)	河 野 裕 (益田)
藤 井 幹 雄 (邑智)	若 林 浩 (隠岐)

〔新任保護司〕 12名 (平成21年12月1日付け)

幡 垣 裕 行 (松江)	賀 戸 重 幸 (浜田)
日 野 隆 道 (松江)	桑 原 英 寿 (浜田)
千 葉 哲 之 (雲南)	神 山 哲 夫 (浜田)
森 合 俊 雄 (雲南)	佐々木 善 友 (浜田)
内 部 康 正 (出雲)	中 田 嘉 明 (浜田)
石 田 卓 郎 (邑智)	藤 下 由美子 (益田)

〔表紙写真説明〕 出雲^{かみよかぐら}神代神楽

出雲大社直属の神代神楽として、島根県無形文化財に指定され、大社の紋どころを許された山王寺に本部が置かれている。(雲南市大東町和野神楽社中。標高400mにある沢池にて。)

敬 弔

下記の方がご逝去されました。ご功績を偲び謹んで哀悼の意を表します。

元保護司 井戸内 正 (松江)

(平成21年10月3日死亡)